

季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM



マスコットキャラクター
よすみちゃん

第4号 (2012年1月)



今回、「こつした」「お宝」を一堂に集め、「くらし」「近代の歴史資料」「絵画と書」「珍品」といった



「お宝」がずらり。
右奥は江戸時代の「富くじ桶」。

市内各地のコミュニティーセンターには、有名な作家による絵画や書をはじめ、さまざま「お宝」があります。特に資料室を備えた施設には、昔の道具や歴史資料が大切に保管されており、その中には目くろ見ることのできないものもあります。

インフォメーション
新春ミニ企画展
「ふるさと出雲お宝展」
ただいま開催中!
1/11(水)～2/13(月)
9時～17時(入館16時30分まで)
(火曜休館) *観覧無料

今年「古事記」編さんから一三〇〇年という節目の年になります。春の企画展は、「古事記」編さんの奈良時代を中心に当時の出雲

企画展
「古代出雲のものづくり
〜織る・塗る・熔かす・焼く〜」
3/17(土)～5/14(月)
9時～17時(入館16時30分まで)
*観覧料 300円
(高校生以下無料)
今年「古事記」編さんから一三〇〇年という節目の年になります。春の企画展は、「古事記」編さんの奈良時代を中心に当時の出雲



懐かしの機械式計算機(タイガー社製)を体験していただけます。

テーマごとに展示しています。土(つち)天神(県指定文化財)や糸あやつり人形、明治時代の絵はがきや地図、平山郁夫の絵画や若槻禮次郎の書など見どころ満載となっていますので、ぜひご覧ください。

が、出雲でも多くの被害がありました。当時の古文書を中心に、出雲の人々の地震に対する行動や思いに注目します。

「記された安政の南海地震
幕末の出雲で何が起きたか」
2/15(水)～5/14(月)
*観覧無料
昨年6月に開催した「地震展」は大きな反響がありました。その際に寄せられた情報をふまえ、今回は一八五四年に起きた安政の南海地震に注目した展示を行います。四国沖を震源とする地震ですが、出雲でも多くの被害がありました。当時の古文書を中心に、出雲の人々の地震に対する行動や思いに注目します。

の人々の「ものづくり」に注目します。特に「織る」のテーマでは、青木遺跡(出雲市西林木町)出土の紡織(ぼつしよく)資料をはじめ、ふだんは斐川文化会館にある高機(たかはた)や箱機(はこばた)(県指定文化財)などの機織りに関する民俗資料を合わせて展示します。「熔かす」に関連して、玉作湯(たまつくりゆ)神社のガラス塊(かい)(国重要文化財)などを展示します。

博物館運営協議会

第一回会議を開催しました

平成22年4月のオープンから早いもので一年九ヶ月が過ぎようとしています。そこで、今後の博物館運営について、各界の皆さんから意見をいただくこと、「出雲弥生の森博物館運営協議会」を設置し、12月15日に第一回会議を開催しました。



熱心な議論が続きました。

委員の皆様からは、学校教育の中で積極的に利用とメニュー開発の必要性、考古だけでなく幅広い分野の展示やアジア圏での共同研究と成果発表といった意見をいただきました。今回のご意見を参考に、魅力的な博物館にしていきたいと思えます。

特集 研究ノート

土器復元の技

（鶴淵寺出土備前焼の甕）
がくえんじ びぜんやき かめ

博物館では、多くの土器を展示しています。しかし、完全な形で残っていることは稀で、バラバラに壊れた状態で出土することが多いのです。今年度調査を行った鶴淵寺等澗院（こうじゅいん）南地区では十五世紀代の備前焼の甕が出土しました。



備前焼甕の出土状況

もとは、水甕だったと考えられますが、発掘調査で見つかったときは、バラバラの状態でした。調査では、すべての破片を一点一点記録し、博物館に持ち帰りました。破片は、水洗い、乾燥、注記（土器にどこから出土したのか小さな文字で記します。）接合（パズルのように破片を組み合わせて

いきます。）を一連の作業で行います。一部分ながった土器を基に、ミリ単位の精度で遺物の実測図を作成します。この実測図が土器復元の設計図になります。



遺物の実測図作成

この図を基にして、土器全体を復元していきます。土器の高さや底・胴・口など各部分を細かく計り、破片一点一点の特徴を観察します。次に、牛乳パックやプラスチックパネルなどを利用した型枠で微妙な土器のラインを再現し、



土器復元の途中
(土器補修材で復元しているところ)

土器補修材を流し込んで欠けた部分を補っていきます。この復元作業は、熟練の技をもつ「室内整理作業員」によって行なわれています。



釉の位置を考えて復元しています。

博物館に入って右側のガラス越しに「遺物整理室」が見えます。ここでは、このような復元作業などを行っています。ご来館の際は、ぜひご覧ください。



組み上がった備前焼の甕

（出雲市文化財課 石原 聡）

発掘調査の現場から

古代寺院の水切瓦が出土
神門寺付近遺跡

(出雲市塩冶町)



発掘の状況

神門寺は、古代瓦などが出土することや庫裡(くり)の裏庭に当時の礎石が残ることから、古代の仏教文化を知ることのできる貴重な遺跡「神門寺境内廃寺跡」として市指定文化財となっています。ここを『出雲国風土記』に記載された新造院(しんぞういん)の一所に比定する説もあります。神門寺周辺に広がる神門寺付近遺跡で、現在、道路改良工事に伴って調査しています。一番南に位置する調査区で、柱穴と思われる穴や溝などの遺構が見つっています。

遺物には、坏(つき)、皿などの土師器(はじき)、須恵器(すえき)のほか古代瓦(奈良時代)が多く出土しています。瓦の中には平瓦、丸瓦のほか軒丸瓦(のきまがわら)があります。左写真は文様の付く部分の下端部を削って三角状に尖らせた「水切瓦」と呼ばれるもので一点出土しています。



水切瓦

この水切瓦は、現在のところ備後北部を中心に、出雲・安芸・備中の一部に分布しており、山陰と山陽を結ぶ地域以外では発見されていません。出雲への古代の造瓦技術や初期仏教文化の伝播を考える上で注目すべき遺物といえます。調査は今後、神門寺境内廃寺跡の中心部に向かって調査を進めていきます。遺構の配置を明らかにするとともに、注目される遺物が出土することを期待しています。

(出雲市文化財課 岸 道三)

出雲市のお宝紹介

(指定文化財)

「古志家文書」十一(市指定)

中世の出雲国には、神門(かんだ)郡古志郷(現・出雲市古志町、下古志町)を本拠とした、古志氏と呼ばれる領主がいました。古志氏は、十三世紀末頃から三〇〇年ほどの間、出雲大社やその時々の守護大名・戦国大名と強い結びつきを持ち栄えました。その具体的な様子を教えてくれる史料が、「古志家文書」十一点です。

「大内義隆書状」からは、古志氏が尼子氏方から大内氏方に転じたことが分かるなど、いずれも尼子氏など出雲周辺諸勢力との関係を考える上で重要な史料です。

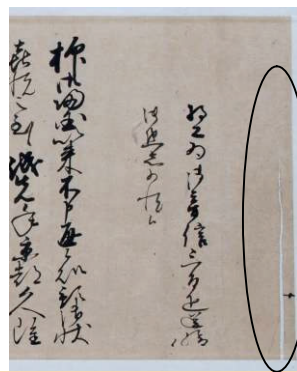


大内義隆書状(1542年、部分)

「古志家文書」は以前は県外にありましたが、古志史探会をはじめ

めとする地元の方々のご努力と、古志氏ゆかりの地に史料を残したいという所蔵者の思いにより、旧出雲市が寄贈を受け、二〇〇〇年(平成12)に市指定文化財となりました。現在は出雲中央図書館に保管されています。

文書十一点は保存状態が非常に良く、特に「上野秀政書状」などの六通には、切封(きりふう)の跡が残っています。切封とは、書状の右端の下から途中までを細く切り、この切った部分を紙紐として書状をくる方法のことです。この跡が残っていることは非常に稀です。



上野秀政書状(1577年、部分)
書状右端下の切れ目が切封の跡

このように、古志家文書は、その内容だけでなく、文書が作られた当時の形をそのまま残しているという点でも貴重な史料です。

(出雲市文化財課 八幡一寛)

博物館講座・イベントのご案内

文化財保護審議会委員講座

「出雲大社の造営遷宮と本願」
3/11(日) 14時～16時

【講師】山崎裕一 委員

「出雲市内の古文書について」
3/25(日) 14時～16時

【講師】藤岡大拙 委員

受講料 各300円

春の企画展 関連講座

「古代の機織りを体験しよう」
3/18(日) 10時～16時

【講師】東村純子 氏
(国立民族学博物館)

「古代における」

4/14(土) 14時～16時
地方のものづくり

【講師】古尾谷知浩 氏

(名古屋大学大学院文学研究科准教授)
「古代における都のものづくり」
5/6(日) 14時～16時

【講師】栄原永遠男 氏

(大阪市立大学大学院 文学研究科特任教授)

受講料 無料

このほか出雲織の高機実演・体験を予定しています。(日時未定)

博物館アテナントコーナー

テーマ「博物館の魅力伝えます」

みなさんこんにちは。

今号は片岡が担当いたします。博物館の魅力についてお伝えするこのコーナー。今回は、施設の魅力を紹介したいと思います。実は、この博物館の実習室は、料理するための設備がとってても充実してるんですよ！

では、今回、実際に料理をされている皆さんの様子を見てみましょう

どれどれ、何ができるのかな？

五目ごはん



炊飯器は1.5升炊き。(2台あり)

茶碗蒸し



蒸し器もあります。

チーズケーキ



ミキサーやオープンもあります。

よすみちゃんチーズケーキを作っていました



調理器具は、包丁、まな板や鍋餅つき器なども取りそろえてあります。

実習室は大人が約20人座れる程度ですが、たいけん学習室へ飲食(食可)と一緒に利用していただくことで、100人までの利用に対応できます。定期的に利用されて

各種講座は、当館へ電話・FAXでお申込みください。(講座名・氏名・住所・連絡先を記入)

(発行)出雲弥生の森博物館 2012年1月
〒693-0011 島根県出雲市大津町2760
(TEL)0853-25-1841 (FAX)0853-21-6617
(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
入館料/無料(特別展等観覧料を除く)
開館時間/9:00~17:00(入館16:30まで)
休館日/火曜日(祝日の場合翌日)・年末年始

博物館までお問い合わせください。

施設使用料(1時間あたり)
・実習室 300円
・たいけん学習室 1000円
予約方法、使用料など、詳しくは博物館までお問い合わせください。



とってもおいしそうですね

いるグループもありますので、みなさん子ども会活動や地域活動などで、ぜひご利用ください！